

■マイ箸(持ち箸)とは

「マイ箸」とは、自分用に持ち歩いて使う箸のことをいい、『持ち箸』などという場合もあり、自宅で使う箸とは区別します。行政や企業、一般市民によってマイ箸の利用を推進するキャンペーンが各地で行われており、箸の携帯は、若者を中心に一種の流行になりつつあります。日本国内で割り箸消費は年間約250億、その約8割以上は輸入によるものです。マイ箸を持ち歩く事で、割り箸を使い捨てる必要がなくなり、原料となる木材を森林から伐採することもなくなるわけです。

実際に、マイ箸の推進運動と割り箸の使用自粛はセットで進められていて、環境省でも、若者を対象に生活様式の変革などを勧める音楽イベントで、マイ箸の利用による割り箸削減などを呼びかけています。また、会津若松市の環境基本計画にも第二次改訂版で、市民に対し、使い捨て商品などの買い控えや、マイ箸運動の推進などの意識啓発を行う記述が追加されました。

■会津塗をPRするためのアイテムとして。

日本三大漆器産地でありながら、会津塗りはお盆や重箱、お椀などが中心で、桑などの堅材を箸に加工する技術がなく、個人専用食器である『箸』の生産は現在ほとんどありません。市内のお土産コーナーには小浜産の塗箸が並び、会津塗りの表示があっても加工だけということも少なくありません。もっとも身近な『箸』を会津塗りにし普及することで会津塗りを身近に感じてもらい、漆器の良さを見直すきっかけにつながります。



会津木綿で箸入れとちよこ入れの巾着を作ってみました。常に身に付けて、宴席の時に活かして参りたいと思っています。皆さんもいかがでしょうか。～菅家一郎市長のブログより～

～新聞記事～

飲食店の会合は「マイ箸」持参/若松商議所青年部

会津若松商工会議所青年部(真部正美会長)は昨年「マイ箸」運動を推進している。会員が委員会の会合などで飲食店などに集まる際は、マイ箸を持ち寄ることはもとより、菅家一郎会津若松市長に対してもまちづくりに寄与する方策として提言している。

提言では「マイ箸」運動を地域全体へ広げることで、会津塗など地場産業の振興へ寄与し、結果的に郷土の自然環境を守る意識にもつながる、としている。

(2008年7月28日 福島民友ニュース)